

## 第3学年国語科学習指導案

日 時 平成29年11月8日(水) 5校時  
場 所 山田町立山田中学校 3年3組教室  
学 級 3年3組(男子16名、女子17名、計33名)  
指導者 教諭 内藤 大輔

### 1 単元名

おくのほそ道(「国語3」東京書籍)

### 2 単元について

#### (1) 教材観

本単元は中学校学習指導要領国語、国語科第三学年〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の指導事項〔ア(ア) 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。〕に力を入れ、指導しようとするものである。

「おくのほそ道」は、江戸時代に俳人の松尾芭蕉が著した紀行文である。旅での経験によって生まれた多くの名句をちりばめ、格調高い文章で構成されている。日本の紀行文学の中でも最も優れた作品の一つに挙げられる、屈指の名文である。

本教材は「おくのほそ道」の解説、冒頭部、平泉の部から構成されている。冒頭部では、旅立つ前の芭蕉の住まいの様子や思いが描かれており、芭蕉の旅に対する強い憧れや覚悟を読み取ることができる。平泉の部では、藤原氏三代の栄華の跡や自然の中にたたずむ光堂の様子等が描かれており、人の一生のはかなさを感じる芭蕉の人生観を読み取ることができる。

格調高い文章を音読したり、文章の意味を解釈したりするだけでなく、俳句にかけた芭蕉の思いや旅に対する覚悟、人生観などを丁寧に読み取らせたい。人生をかけて俳句に取り組んだ芭蕉の姿は、進路実現を前にした生徒の心に響くものとなり、より古典の世界を身近に感じることができる教材であると考えている。

#### (2) 生徒観

生徒はこれまで、1年生で「いろは歌」「竹取物語」(光村図書)を通して、歴史的仮名遣いや重要古語など古典学習の基礎を学びながら、音読を通して古の言葉の響きを楽しむ学習を行ってきた。また、2年生では「枕草子・徒然草」「平家物語」を通して、登場人物や作者の思いを考え、それらを朗読にいかす授業を行ってきた。

声に出して古典作品を読むことに関しては意欲的に取り組むことができるものの、その内容を読み取る段階になると、古語に苦手意識をもち、解釈をあきらめてしまう様子も見られる。そこで、得意の音読が古語の解釈につながるような工夫をしながら学習を進めていきたいと考えている。

生徒が得意としている音読の活動にさらに力を入れるとともに、時代背景や芭蕉の人生観などにも触れながら、格調高い文章と蕉風俳句のもつ味わいに生徒たちが触れられるよう、丁寧に学習に取り組ませたい。

「おくのほそ道」は格調高い文章と俳句から構成されており、生徒が古文を読んで内容を理解することに苦手意識をもつことが予想される。そこで、古文の原文の中で難しい語句を取り上げ確認したり、繰り返し音読したりして、古文に親しみをもたせていきたい。また、内容の読み取りに関しては、口語訳と見比べたり、写真を使って示したりしながら、読み取りの手助けとしていきたい。本教材を通して、古文を見ただけで苦手意識をもつのではなく、ポイントをおさえたり何度も読んだりすることで、古文が分かるということを実感させ、さらに自分の考えが深まることも味わわせたい。

(3) 研究主題との関わり

○生徒指導の三機能

- ・「自己決定の場を与える」

どの授業の中でも、個人で考える時間を必ず確保している。グループワークを行う際でも個人で考えてから行き、グループワーク後にもう一度個人で考えをもたせるようにしている。

- ・「自己存在感を与える」

特にグループワークを意識している。全員に発言させること、司会・記録といった何かしらの役割をもたせること、仲間の考えに対して意見を発表させることなどをグループワークに取り入れている。

- ・「共感的な人間関係」

様々な考えを大切にすることを粘り強く指導している。意図的な指名やグループワークの際に出た自分とは異なる意見を、笑ったりすぐに排除したりするのではなく、違いから考えを深める大切さを指導している。その際に、うなずきや拍手、表情なども発言者のメッセージとなることを意識して取り組ませている。

○見通し・振り返り

- ・「見通し」

単元全体と一時間当たりの見通しをもたせている。単元の初めの時間には、単元での最終目標や身につけた力、全学習の流れを確認し、生徒がどのように単元を進めていくのか理解できるようにしている。また、見通しシートやその時間の学習課題によって、一時間当たりの見通しももてるようにしている。全体の流れを確認させることで、一時間単位の学習の必然性を感じられるように構成している。

- ・「振り返り」

単元全体と一時間当たりの振り返りをさせている。毎時間、振り返りシートを使い、振り返りを行っている。振り返りでは①どのような活動を行ったのか、②どのようなことを学んだのか、③今後にどういかしていくのか、の三つの観点を掲示して行っている。また、授業の初めに前時の振り返りを確認することによって、本時の学習にスムーズにつながられるようにしている。さらに、単元の最後には、まとめの学習活動と単元全体の振り返りも行っている。

3 単元の目標

作者の思いや作品が作られた背景を捉え、古文の世界を深く読み取ることができるようにする。[伝国ア (ア)]

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
古文を読み、様々な見方で読み味わって自分の意見をもとうとしている。	古文を読み、読み取った内容を伝える文章を書いている。	古文を様々な観点で読み味わうために、場面をとらえて文章全体の理解を深めている。	歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しんでいる。

5 単元の指導計画・評価計画 (本時2/7)

時	学習内容	目標	評価の観点					評価規準
			関	話	書	読	知	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の見通しをもつ。</li> <li>・おくのほそ道、芭蕉の基礎知識をおさえる。</li> <li>・冒頭部を音読する。</li> </ul>	単元の見通しをもち、これから学習していく、おくのほそ道や芭蕉の基礎知識を理解する。	○					今後の学習にいかすために、おくのほそ道や芭蕉の基礎知識を理解しようとしている。(関)

2 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「旅立ちの句」に込められた思いを考える。</li> <li>・冒頭部から芭蕉の旅にかけの思いを読み取る。</li> <li>・冒頭部から読み取ったことや基礎知識も踏まえ、もう一度「旅立ちの句」に込められた思いを考える。</li> </ul>	芭蕉の旅にかけの思いや背景を冒頭文から読み取り、「旅立ちの句」に込められた気持ちを深く読み取る。				○	○	芭蕉の旅にかけの思いや背景を踏まえることで、「旅立ちの句」に込められた気持ちをより深く読み取っている。(読・知)	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平泉の部前半を音読する。</li> <li>・本文の内容を読み取る。</li> <li>・平泉の二句を読み取る。</li> </ul>	紀行文と合わせながら、平泉の二句に込められた気持ちを読み取る。						紀行文の内容を踏まえ、平泉の三句に込められた気持ちを読み取っている。(読・知)	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平泉の部後半を音読する。</li> <li>・本文の内容を読み取る。</li> <li>・平泉の三句目を読み取る。</li> <li>・平泉の部から芭蕉の人生観をとらえる。</li> </ul>	平泉の三句目に込められた気持ちを読み取り、平泉の部全体から芭蕉の人生観をとらえる。				○	○	平泉の部全体から芭蕉の人生観をとらえている。(読・知)	
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞文の構成メモを作る。</li> </ul>	俳句や紀行文を読み取り、鑑賞文の構成メモを完成させる。						○	鑑賞文作成のために俳句や紀行文を読み取り、歌意や光景、技法、思いをまとめた構成メモを作っている。(知)
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞文を書く。</li> </ul>	前時までの学習をいかし、作者が旅に寄せた思いなどが伝わる鑑賞文を書く。				○		作者が旅に寄せた思いなど、読み取った内容が伝わる鑑賞文を書いている。(書)	
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞文を読み合う。</li> <li>・芭蕉にとっての旅をまとめる。</li> </ul>	自分の鑑賞文と読み比べ、観点に従って他者の鑑賞文を批評し、自分の考えを深める。					○	鑑賞文の中から様々な芭蕉の思いを読み取り、芭蕉にとっての旅を自分の言葉でまとめている。(読)	

## 6 本時の指導

### (1) 本時の目標

芭蕉の旅にかけの思いや作品が作られた背景を踏まえ、「旅立ちの句」に込められた気持ちを読み取ることができるようにする。

### (2) 本時の指導構想

本時は、俳句を作者の思いや背景を踏まえて深く読み取ること为目标としている。「旅立ちの句」を一度読み取らせた後、作者が旅にかけた思いを捉えさせ、もう一度「旅立ちの句」の読み取りを行う。冒頭文に書かれた芭蕉の人生観、旅に対する思いや決意を読み取ることで、句に込められた芭蕉の思いをより深く読み取りができることを実感させたい。

本校の研究と関わる点として、生徒指導の三機能のうち、「自己決定の場を与える」ことと「自己存在感を与え

る」ことを特に意識する。冒頭文から芭蕉の思いを読み取る場面や、旅立ちの句に込めた思いを読み取る場面では、個人で考える時間を十分に確保し、自己で考えを深められるようにすることで、「自己決定の場を与える」ように留意する。また、個人で読み取った芭蕉の思いをグループで共有する際には、司会者や発表者などの役割を決めたり、お互いの考えに意見や質問を述べさせたりすることで、「自己存在感を与える」ようなグループワークにしていきたい。

(3) 評価規準

芭蕉の旅にかける思いや作品が作られた背景を踏まえ、「旅立ちの句」に込められた気持ちを読み取っている。

[C (1) イ・伝国ア (ア)]

(4) 展開

段階	学習内容	生徒の学習活動	教師の評価 (○)・支援・留意点
導入 10分	1 前時の振り返りを行う。	・前時までの学習内容を振り返る。	・本時の学習につながる前時の振り返りを発表させる。
	2 「旅立ちの句」には芭蕉のどのような思いが込められているのか考える。	(例) 住んでいた人が女性にかわると、雛人形も飾られて華やかになるのかなあ。	・読み取った内容を発表させ、全体で共有させる。
	3 本時の見通しをもつ。	見通し ・単元全体を見通した中で、本時がどのような位置づけにあるか確認する。 ・本時の学習の流れを確認する。	・見通しシートを活用しながら確認させる。
「旅立ちの句」に込めた芭蕉の思いを読み取る。			
展開 35分	4 芭蕉がどのような人物であったのか理解する。	・学習プリントを用いて芭蕉がどのような人物であったのか理解する。	・本時の内容につながる学習プリントを用いる。
	5 冒頭部から芭蕉が旅にかけた思いを読み取る。 ①個人で、原文の中から読み取ることができる箇所に線を引く。 ②個人で、線を引いた箇所から読み取ることができる思いを書く。	(例) 「月日は～旅人である。」(P135,L1~3) →月日も何もせずとも過ぎて行ってしまう。自分も早く旅に出たい。 「船の上で～住まいとしているのである。」(P135,L3~7) →様々な人が世界には暮らしている。色々な生活を見てみたい。 「古人にも～例は多い。」(P135,L7~8) →尊敬した人もみんな旅に出ている。自分も旅で死ぬつもりだ。	・生徒用のプリントには学習の手助けとなるように、現代語訳も載せる。 ・机間巡視をし、上手く見つけられない生徒には助言をして考えさせる。 ・メモを取りながら話し合いを進めさせる。また、友達の見解に賛成・付け足し・疑問などを述べさせ、話し合いの内容を深める。【存在】

<p>展開 35分</p>	<p>③グループで、共有する。 ④グループで、1番強く思いが表れている箇所を決める。</p> <p>6 「旅立ちの句」についてももう一度考える。</p>	<p>「私もいつの年からか～気持ちがやまず、」 (P136,L1~3) →自然に旅に出たいという気持ちがわいてきて止めることができない。 「そぞろ神が～手につかず、」 (P136,L8~11) →まるで神に導かれていると錯覚するくらい旅に出たいと思っており、何も手につかない。 「股引の～移るときに、」 (P136,L11~15) →旅に行きたい気持ちも強く、もうここに戻るつもりはない。</p> <p>(例) 自分が住んでいた家を他の人に渡してまでも旅に出たい、新しい世界を俳句に詠みたい、という強い気持ちが込められている。ついに旅に出ることができる胸の高鳴りと、今までの生活に別れを告げる切なさ、ここにはもう戻ってこないだろうという覚悟が入り混じった、複雑な気持ちが表れた句である。</p>	<p>○芭蕉の旅にかける思いや背景を踏まえることで、「旅立ちの句」に込められた気持ちをより深く読み取っている。 [伝国ア (ア)] ・生徒を指名して発表させ、考えを共有させる。</p>
<p>終末 5分</p>	<p>7 振り返り</p>	<p>振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①本時の活動</li> <li>②学んだこと (内容)の2つの観点で振り返りを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒を指名して発表させ、考えを共有させる。</li> </ul>
<p>【「振り返り」文例】</p> <p>今日は芭蕉の思いや背景を踏まえて、「旅立ちの句」を深く読み取った。最初は、ただ自分の家の変化について歌った俳句だと思っていたが、思いや背景を考えると、芭蕉の旅への強い思いが込められた俳句だと分かった。〇〇さんが言っていた「複雑な気持ち」というのは自分とは違う意見だったが、理由を聞いたことで納得した。</p>			

【決定】：自己決定の場を与える手立て 【存在】：自己存在感を与える手立て 【共感】：共感的な人間関係を育成する手立て